

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター				変更又は改善内容			
0 相談支援事業所の概要		昨年度				今年度			
0-1 実施状況について									
事業所の特長	法人名称	社会福祉法人日本ヘレンケラー財団							
	法人所在地	大阪市阿倍野区昭和町3丁目4-27							
	事業所名称	わかば							
	事業所所在地	大阪市阿倍野区美章園3丁目2-12-1F							
	電話番号	06-6621-8001							
	実施曜日	月曜日～金曜日（祝日含む）及び第2、第4土曜日							
	実施時間	9:00～17:30							
同一場所で実施しているその他の事業	障害者支援施設、生活介護、就労継続支援B型、地域活動支援センター生活型、短期入所								
実施法人で実施しているその他の事業	共同生活援助、居宅介護/重度訪問介護、福祉型障害児支援施設、救護施設など								
事業所の特長	<p>□平成24年度の各区相談支援センター化に伴い、施設の中から美章園地域へ所在地を移したことで、より来所しやすくなった。祝日を開所することにより、相談の予約が取りやすい。</p> <p>□相談支援とともに交流・活動の場としてグループ活動を開催。</p> <p>□法人内各施設、事業所との連携した支援が可能。特に障害者支援施設アテナ平和とは隣接しており、日中活動系事業とは連携が取りやすい。なかでも地域活動支援センター「アクセス」は精神障害者への専門的な相談支援を行っており、より協働の機会が多くなった。</p>								
0-2 事務室等について		昨年度				今年度			
	事務室	36㎡	<input checked="" type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
	相談室	4㎡	<input checked="" type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
	その他	4㎡	<input checked="" type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
0-3 職員の状況		昨年度				今年度			
		常勤職員		非常勤職員		常勤職員		非常勤職員	
		専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務
		1人		2人		1人		3人	
0-4 職員の勤務体制		昨年度				今年度			
		平成26年途中まで25年度と同じ。非常勤1名退職のため、途中から以下の体制を整備				年度途中で非常勤2名退職。			
		①管理者（相談支援専門員 兼務）：常勤兼務 月～金曜日 9:00～17:30				途中非常勤1名採用。			
		②看護師：非常勤専従 火、水曜日 10:00～17:00				①管理者（相談支援専門員 兼務）：常勤兼務 月～金曜日 9:00～17:30			
		③その他：非常勤専従 月、火、木、金曜日 9:00～17:30				②看護師：非常勤専従 火、水曜日 10:00～17:00			
		※休日の開所、行事、相談予約などによる変更あり。				③その他：非常勤専従 火、水、木、金曜日 9:00～17:30			
						※休日の開所、行事、相談予約などによる変更あり。			
0-5 ピアカウンセリングの実施状況		昨年度				今年度			
		障がい名	実施曜日	実施時間	障がい名	実施曜日	実施時間		
		—	—	—					

事業所名	阿倍野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
1 事業運営全般	昨 年 度	今 年 度
1-0 理念・基本方針	<p>【法人理念】日本ヘレンケラー財団は、利用者本位の視点に立って、『人間としての尊厳』『自己決定の尊重』『社会の一員としての自覚』『生き甲斐、働き甲斐のもてる生活』を柱とし、ひとりひとりのニーズに即した支援を心がける。</p> <p>また、地域の福祉ネットワークの核としての役割を自覚し、地域福祉の実現に積極的に貢献し、守る福祉ではなく、常に利用者のニーズに応じていけるように絶えず先駆的的事业に取り組んでいく。</p> <p>職員においては、キャリアアップを図り、働き甲斐のもてる職場環境の整備及び、優秀な人材の育成に努める。</p> <p>最後に、安定的な財務基盤の確立のため、適切な収益確保に努力し、計画的かつ効果的な事業運営を行う。</p> <p>【法人職員の自主管理理念】</p> <p>①利用者の尊厳を護り、無差別平等の援助を為す。（基本理念）</p> <p>②利用者和社会の福祉的向上を（常に）図る。（日常的留意）</p> <p>③プロとしての責任・自覚をもつ。（未必の故意の排除）</p> <p>④早期発見と早期対応。（すぐやる、すぐ働く）</p> <p>⑤処遇水準の維持、改善の意欲をもつ。（常に学び、研鑽する）</p> <p>⑥経験をいかす。（同じ過失は繰り返さない）</p> <p>⑦専門知識、技術にも限界があることを認識する。</p> <p>⑧チームワークによる対応。職員間の平等関係を維持する。（全体機能で活動）</p> <p>⑨責任系統を通す。（横の関係で処理をしない）</p> <p>⑩臨機的・緊急性に即応する。（地域社会への貢献）</p> <p>⑪社会資源の開発と活用を図る。（創造の精神）</p>	

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-1 運営体制		昨年度		今年度	
1-1-① 事業運営の評価		評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
a	事業の理念・基本方針を実現するための具体的な取り組みを示すものとして、委託期間全体を通じた計画が定められている。	3	<p>①障がい児～者の切れ目のない支援…相談としては、規制の児童支援事業所や公的機関に馴染みにくいご家族や、タイミングで利用につながらなかった児童の相談を受けることができた。</p> <p>②相談支援事業所を中心とした地域ネットワークづくり…自立支援協議会の部会の定着化、日中活動フェスタや事業所連絡会の開催と自身の充実が前進したと感じている。協議会の要綱自体を改編したので、これに伴い参加構成員で協議会の目的など共有できたと思う。</p> <p>③緊急一時保護のできる資源について検討…昨年より変化なし。相談内容としては、26年度末頃に緊急保護の利用案件があった。今回は女性保護施設での対応となったが、DV案件なのか、障がい者虐待案件なのかの線引きがあり、機能上不安を感じた。やはり地域でのこういった保護システムは必要ではないか。</p> <p>④権利擁護研修などの開催…自立支援協議会で開催できた。</p> <p>⑤困難ケースに対する柔軟な拡大ケース会議…事例検討会は定期的に行えた。26年度は協議会の要綱の見直しなど行い、地域の困難ケースや社会資源の改善に向け、27年度での提言を行う。</p> <p>⑥虐待の防止、保護について…特に進展なし。</p> <p>⑦知的障害者の地域移行について…事業所においては、ご家族向けに成年後見制度やグループホーム利用当事者の質疑を交え、ピアカウンセリング的に地域移行、権利擁護研修を開催した。継続開催を予定。</p> <p>上記①…自立支援協議会において、児童福祉事業所の連絡会の1回目を開催。有意義な情報交換ができた。27年度以降の定着化、部会化を図る。</p> <p>上記②…相談支援部会、研修部会を正式に行った。研修企画や相談支援事業所の質向上は前進したと思える。児童福祉部会は教育機関や公的機関の参加も視野に入れて設置を図る。また居宅介護事業所での連絡会開催を目指す。</p> <p>上記③…引き続き事例を蓄積する。上記のとおり、26年末～の相談があがったが、利用できる仕組みがないから実相談としてあがらないだけで、潜在的にはニーズがあるように思う。障害児者の受ける虐待やDV、ネグレクトは、一事業所、一施設の踏ん張り、相談機関の交渉で支えられているのではないかと感じた。</p> <p>上記④…地域移行支援の過程でも課題となるので、定期的な開催を計画したい。</p> <p>上記⑤⑥⑦…昨年度と同じ。</p>	3	<p>①障がい児～者の切れ目のない支援…子ども相談センターからの依頼や、子ども家庭センターからの相談を積極的に受け入れた。また、児童から成人に代わるタイミングで関わることができ、スムーズにサービス移行できるよう橋渡しを行った。</p> <p>②相談支援事業所を中心とした地域ネットワークづくり…自立支援協議会の部会の定着化、相談支援部会は地域に向けての活動には取り組めていない。</p> <p>③緊急一時保護のできる資源について検討…昨年より変化なし。地域でのこういった保護システムは必要ではないか。</p> <p>④権利擁護研修などの開催…センターの自己啓発活動で、家族に向けて話をした。</p> <p>⑤困難ケースに対する柔軟な拡大ケース会議…事例検討会は定期的に行えた。また、困難ケースについては、都度関係機関に集まってもらい検討していくことができた。</p> <p>⑥虐待の防止、保護について…特に進展なし。</p> <p>⑦知的障害者の地域移行について…取り組めていない。</p> <p>①…児童福祉事業所の連絡会を開催。有意義な情報交換ができた。しかし、部会化にはまだしばらく時間がかかりそうである。部会化にする意義などを伝えていきたい。</p> <p>②…研修企画や相談支援事業所の動きは徐々に活発になってきている。児童福祉部会は教育機関や公的機関の参加も視野に入れて設置を図る。引き続き居宅介護事業所での連絡会開催を目指す。</p> <p>③…潜在的にはニーズがあるように思う。障害児者の受ける虐待やDV、ネグレクトは、一事業所、一施設の踏ん張り、相談機関の交渉で支えられているのではないかと感じた。</p> <p>上記④…地域移行支援の過程でも課題となるので、定期的な開催を計画したい。</p> <p>上記⑤⑥⑦…昨年度と同じ。</p>
b	委託期間全体を通じた計画を踏まえて年度ごとの事業計画を策定している。	3	<p>単独の事業所運営からアテナ平和に属することになり、より具体的な単年度計画が立てられるようになった。</p> <p>①地域自立支援協議会への積極的参加と地域ネットワークの構築…要綱の見直しとともに、相談支援部会、研修部会の設置、研修会や啓発行事の開催など成果があった。他機関・他事業所と協力する場面が増え、ネットワークづくりにも役立った。</p> <p>②丁寧な相談受付…日々の業務の中では丁寧に行えたと思う。しかし面談やケース記録だけでなく、計画相談支援や個別支援計画といった一定量の事務業務にもしっかりと反映させていく必要がある。</p> <p>③地域移行、地域生活の継続を支援する…相談者同士の交流の場や、そこから得られるピアカウンセリング的な効果には取り組めた。また啓発活動も1~2回開催できた。</p> <p>④利用者の権利擁護に努める…成年後見人制度の利用援助など、日々の業務の中では意識しており、取り組めたと思う。</p> <p>①について…今後、児童部会、就労支援部会、居宅介護事業所部会など、目的をもって積極的に展開したい。</p> <p>②について…計画相談支援だけでなく、委託範囲の相談でも支援計画などの整備を進める。</p> <p>③について…単独事業所での活動だけでなく、自立支援協議会などを積極的に活用し、幅を広げていきたい。</p> <p>④について…虐待通報窓口としての啓発は課題がある。</p>	3	<p>①地域自立支援協議会への積極的参加と地域ネットワークの構築…相談支援部会、研修部会での取り組みは、研修会や啓発行事の開催などの成果につながっている。また、他機関・他事業所と協力する場面が増え、ネットワークづくりにも役立った。</p> <p>②丁寧な相談受付…日々の業務の中では丁寧に行えたと思う。また、ワンストップを心がけ、簡単に他事業所に振るのではなく、必要性があれば他事業所に引き継いだ。</p> <p>③地域移行、地域生活の継続を支援する…相談者同士の交流の場や、そこから得られるピアカウンセリング的な効果には取り組めた。また啓発活動も1回開催できた。</p> <p>④利用者の権利擁護に努める…成年後見人制度の利用援助や障害基礎年金の取得の支援など、日々の業務の中では意識しており、取り組めたと思う。</p> <p>①について…運営委員への負担が大きい状態である。そのため、来年度は自立支援協議会の組織から見直していきたい。</p> <p>②について…今後も継続していく。</p> <p>③について…入所施設からの地域移行支援等を考えていきたい。</p> <p>④について…虐待通報窓口としての啓発は課題がある。</p>
c	委託期間全体を通じた計画及び年度ごとの事業計画に基づき事業を実施し、その結果を評価している。	3	<p>アテナ平和に所属することで、担当職員と施設長の面談などが行え、評価の機会になっている。27年度は担当職員が交代したため、引継ぎも兼ねて評価、振り返りができた。</p> <p>引き続き施設と連携を強化し、取り組んでいく。</p>	3	<p>半年に一回の担当職員と施設長との面談。職員会議の場で事業計画と評価を報告している。事業所内の会議においても、正職員・非常勤職員を交えて事業計画の評価を行っている。</p> <p>継続して取り組んでいく。</p>
d	事業の評価の結果は、次期計画に反映している。	4	<p>アテナ平和の付帯事業所に移行したことで、より具体的に平成27年度目標を立案できた。評価と次年度への反映もしやすくなった。</p> <p>26年度の目標は25年度より継続したものを設定している。</p>	4	<p>半年に一回の担当職員と施設長との面談。職員会議の場で事業計画と評価を報告の際の意見を反映している。また、事業所内の会議の評価についても事業計画に反映している。</p> <p>継続して取り組んでいく。</p>

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2 適切な相談支援の実施		昨年度		今年度	
1-2-① 自己決定の尊重		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	必要な情報を理解できるように提供するとともに、体験、経験する機会を設けるなど利用者が主体的に自己決定するための条件整備に努めている。	4	計画相談支援の課題も含めて、昨年と同様であるが、それだけに必要な説明や体験については支援できたと思う。	4	必要情報の提供や説明、体験については支援(事業所への同行を含め)できたと思う。
			引き続き努力したい。		引き続き情報収集等に努め、利用者に都度新しい情報を提供できるように努めていく。
b	障がいに応じたコミュニケーション手段を保障している。	3	昨年から常設しているものについては進展はないが、都度の要望には対応している。	2	
			施設内ではホームページの整備に努めている。事業所内の掲示物などについても点訳・音声化などを進める。また他のコミュニケーションツールについても整えていく。		
1-2-② エンパワメントの重視		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者のエンパワメントが図られるよう努めている。	3	毎年、考えさせられる部分であり、事業所内での会議、個別支援会議でも意識できたのではないと思う。ただ日々の相談や関連業務を行うなかで、真に活かしているかは疑問であった。26年度は非常勤職員とのミーティングや本体施設での人権研修を通して取り組めたとと思う。	3	事業所内での会議、個別支援会議でも意識できたのではないと思う。日々の相談支援を行っていくうえで、答えを出すのはスタッフではなく、利用者であること、答えをだすために一緒に考えていく姿勢をスタッフは常に意識するように確認してきた。
			引き続き研鑽に努めたい。		引き続き研鑽に努めたい。



区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2-③ コミュニケーションに関する配慮		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	意思伝達に制限のある人の場合、手話や点字、筆談、映像を利用するなど、その人に合った個別のコミュニケーション手段を検討し、それに基づく対応を行っている。	2	具体的にそういった相談があれば他機関の協力を求めるなど方法を考えていく。	2	
	一度の面接では意思確認等が困難であるような、著しく意思伝達に制限のある人の場合、日常的な関わりを通じて、その人固有のコミュニケーション手段やサインの発見と確認を心がけている。	4	<p>継続して実施できている。計画相談支援についても、周囲の事業所や自立支援協議会、行政機関とも相談・協力して件数負担の軽減を図るなど対策できたと思う。</p> <p>引き続き努力したい。</p>	3	<p>取り組んでいる。スタッフ間で気づき等はないか情報共有を行っている。本人さんの了解を得たうえで関係機関と連携し、意思疎通やコミュニケーションがスムーズに取れる方法を確認した。</p> <p>継続して取り組んでいく。</p>
c	意思伝達に制限のある人の場合、他機関職員との連携や、本人が信頼できる知人、代弁者、手話通訳者等を受け入れるなど、コミュニケーションを行う環境に配慮して、その人の意思や希望をできるだけ正しく理解しようと努力している。	3	第三者を介してのコミュニケーションの希望件数は少ないが、本人の希望があれば当然受け入れる方針（ただし、同席することで事業所側の不利益が生じるような場合を除く）。	2	第三者を介してのコミュニケーションの希望件数は少ないが、本人の希望があれば受け入れる（ただし、同席することで事業所側の不利益が生じるような場合を除く）。
			利用者が話しやすく、また理解しやすいといった利点があれば、同席と個人情報の取り扱いの面で同意を得たうえで受け入れていく。		

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2-④ 権利擁護		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者の立場を擁護し、ニーズ表明を支援・代弁することにより、問題解決力や様々な支援を活用する力を高めているような支援に努めている。	4	相談支援や非常勤教育の積み重ねで経験を積み、実践してきたと思う。行政機関との協力があるので、本人や家族ニーズを伝える場面も多かった。	3	日々の相談業務の積み重ねや、研修などを通して各スタッフが意識をして取り組めたと思う。
			引き続き取り組んでいく。		引き続き取り組んでいく。
	b	人権侵害が発生した場合にはその解決のために積極的に対処している。	3	相談が1件あったのみで状況は変化なし。	4
虐待通報が少ないのは、案件が少ないからではなく、おそらく広報不足だと思われるので、啓発活動も含めて課題となる。積極的に取り組んでいきたい。					
c	虐待が危惧される場合は、関係行政機関と連携し適切な対応を行っている。	4	項目 b に同様。虐待に至っていないと判断されるケースでも、保健福祉センターなどとは連絡を取り合って支援できている。	3	お互いが相談しやすい関係性づくり、雰囲気作りは日々の支援を通して行っているのではないかと思う。
			虐待通報が少ないのは、案件が少ないからではなく、おそらく広報不足だと思われるので、啓発活動も含めて積極的に取り組んでいきたい。		

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3 地域・他機関との交流・連携		昨年度		今年度	
1-3-① 他の関係機関との連携		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	担当区域の地域自立支援協議会に積極的に参加し、様々な取組を提案するなど、協議会の活性化に努めている。	3	26年度より、相談支援部会、企画・研修部会の立ち上げ、全体会議でのコーディネートを担当した。これまで事務局に受け持ってもらっていたことを、事業所主体で行うよう進めた。また指定相談支援事業所や地域の日中系事業所等でも情報交換や研修の機会を定期的に持ち、地域や支援校向けのフェスタも開催した。事業所連絡会では、講師の機会もつくって参加できた。日中年度末には協議会の要綱を改正し、27年度の部会立ち上げが決定した。また事例検討会、なんでも相談会の意義を共有し直し、地域課題の収集と整理を行う。 27年度開始時点で、児童施設部会を準備中。研修部会も活性化し、連続研修がスタートしている。他の取り組みも継続中である。	2	昨年度に引き続き、全体のコーディネートを担った。参加している委員が話しやすい環境づくりを心がけ、提案を引き出せるように配慮した。しかし、わかばからの提案はほとんどできなかった。  運営委員への負担が大きい状態である。そのため、来年度は自立支援協議会の組織から見直していきたい。また、地域の課題を整理して、積極的な提案ができるように努めたい。
b	協働する関係機関や関係団体等が増え、連携が深まっている。	4	日々の相談や協議会活動のなかで協働する事業所は増えている。ネットワークの重要性は支援者間では共通認識できている。さらに連携を深めたい。  さらに努めていく。	3	ケースや協議会活動を通じて協働する事業所は徐々に増えてきている。  協働できている事業所との連携を深めていくとともに、今後とも横のつながりを広げていくよう努めていく。
1-3-② 地域の障がい者の状況把握		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談者に限らず、地域の障がい者を取り巻く状況や課題はおおむね把握できている。	3	日々の相談を踏まえ、事業所内で把握している課題は保健福祉センター中心に伝えている。協議会の中で事例検討の目的を話し合い、要綱改正とともに再共有した。  事例検討会など更に有益なものになると思うので、継続して行う。	2	地域課題に関しては、まだまだ把握できているとは言えない状況である。しかし、地域の事業所との協働する中で積み重ねは行えていると思う。  センターからのアウトリーチも考えていく。
b	障がい者支援機関のみならず地域の福祉・労働・教育・保健医療機関と定期的な会議を開催する等によって、ニーズの把握に努めている。	3	a欄に記載したが、相談支援センターで毎月報告を行い、地域課題を書く欄はあったかと思うが、協議会で把握した課題を市へあげていく仕組みがあるのか、ないのか区内で再検討する必要がある。要綱改正では、27年度末に地域課題として提言していくようになっているので、実践していきたい。 27年度が始まり、地域福祉調整チームの活用が課題。	2	定期的な会議とまではいかなかった。しかし、ケースを通じて、つながりは増えてきており、それぞれが抱える課題等を聞くようにしている。  継続して行い、つながりが深くなってきたら会議等に繋がっていくのではないかと思う。
c	アウトリーチ活動に取り組むことにより、ニーズの把握に努めている。	3	押し付けになることを避け、適切な関わりを意識しながら行えた。「なんでも相談会」での相談件数や、事業所としても福祉制度についての単発的相談は少しずつ増えているように思うが、積極的・効果的な活動とまではいかない。  継続して考えていく。	2	なんでも相談会や自立支援協議会主催の活動では、相談コーナーを設けるなどした。しかし、積極的なアウトリーチに取り組んでいるわけではない。  障がい者相談支援センターが何をしてくれるのか？相談支援とは何なのか？理解や認識を広めていくことがアウトリーチにもつながっていくと思うので、啓発等に取り組んでいく。

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3-③ 地域の社会資源の把握		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	サービス提供事業所や専門相談機関を把握している。	3	具体的な周知活動、こちらからの調査活動は行えていない。昨年同様、日々の相談や研修会、講座などでの情報交換に留まっている。	2	具体的な周知活動、こちらからの調査活動は行えていない。日々の相談や研修会、講座、日々の相談ケースからのつながりなどに留まっている。
			継続して考えていく。		上記を継続していくとともに、横のつながりから新たなサービス提供事業所や専門相談機関とのつながりを構築していけるよう模索していく。
b	学校園・ハローワークなど関連機関の情報を収集している。	3	具体的な周知活動、こちらからの調査活動は行えていない。昨年同様、日々の相談や研修会、講座などでの情報交換に留まっている。	2	具体的な周知活動、こちらからの調査活動は行えていない。日々の相談や研修会、講座、日々の相談ケースからのつながりなどに留まっている。
			継続して考えていく。		上記を継続していくとともに、横のつながりから新たなサービス提供事業所や専門相談機関とのつながりを構築していけるよう模索していく。
c	民生委員、地域ネットワーク委員、ボランティア団体などを把握している。	3	個別の相談を通して、他の分野、福祉コーディネーターとの連携には積極的に取り組めたが、それぞれの団体などの把握を目的とした調査など具体的な活動は行えていない。	2	個別の相談を通して、他の分野、福祉コーディネーターとの連携には積極的に取り組めたが、それぞれの団体などの把握を目的とした調査など具体的な活動は行えていない。
			継続して考えていく。		上記を継続していくとともに、横のつながりから新たな団体とのつながりを構築していけるよう模索していく。 また、わかば発信の行事を通して積極的につながりを持って行けるよう努める。
d	駅や図書館、スポーツセンターなどの公共施設や、金融機関や飲食店、商店などの民間施設、障がい者用トイレやエレベーター等の設備の情報を収集している。	2	実施できていない。地域の公共施設や駅などは個別相談、外出の同行支援、行事の実施などで少しずつだが把握してきているが、設備面の情報までは至っていない。	2	実施できていない。地域の公共施設や駅などは個別相談、外出の同行支援、行事の実施などで少しずつだが把握してきているが、設備面の情報までは至っていない。
			継続して考えていく。		わかばだけでは難しい面があるため、自立支援協議会等を活用しながら進めていけるようにする。



区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター				変更又は改善内容		
1-3-④ 社会資源の改善・開発に向けた取組み		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）				評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
a	既存のサービスの活用だけでなく、既存の社会資源の「改善」や新たな社会資源の「開発」に向けて取り組んだ。	2	1-3-①に同じ。				2	自立支援協議会の部会や連絡会を通じて、横のつながりの構築や大切さを話した。また、事例を共有することで、サービスの質の向上を図った。
			継続して取り組んでいく。					継続して取り組んでいく。
1-3-⑤ 支援困難事例への積極的な対応		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）				評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
a	多問題を抱えた事例や、問題が長期にわたって継続し、解決の糸口を見つけることが困難な事例など支援困難事例への対応を積極的に行っている。	3	昨年から引き続き、事業所へ直接依頼のある相談に対しては、積極的に対応できたと思う。				3	事業所へ直接依頼のある相談（本人、家族、事業所から）に対しては、積極的に対応できたと思う。
			継続して考えていく。					継続して取り組んでいく。
1-3-⑥ 地域住民への周知・啓発的活動の実施		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）				評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
a	障がい者相談支援センターは、自らの役割について地域住民に対して積極的な周知を図っている。	4	平成25年度から法人施設アテナ平和の付帯事業となった。ホームページや合同での地域福祉推進活動（講座や行事など）を活用し、周知効果はかなり上がった。				2	母体施設の行事等を通しての周知活動は、例年通り行ってきた。しかし、センターとして積極的な周知活動を行えたわけではなかった。
			さらに継続して取り組んでいく。					わかばから発信する地域交流事業を催し、障がい者相談支援センターの役割を伝えていく。
b	地域住民との交流や講演会の開催等を通じて、障がい者が地域で共に生きていく意義をはじめ、啓発的活動に積極的に取り組んでいる。	5	アテナ平和の行事、取り組みでは地域住民との交流を目標にあげている。特に近隣では未だに当法人事業に対する疑問・反対があるので、積極的な啓発活動を行ってきた。相談支援センター単体では地域での勉強会、研修会への参加。施設としては地域住民対象での行事や交流会、児童向け行事を開催。そのなかで相談支援センターの広報も行った。また相談支援利用者のご家族に対して、「親亡き後の地域生活と支援」の啓発活動を行った。一人暮らしの当事者にもコメントをいただき、成年後見人などについて勉強した。				3	アテナ平和の行事、取り組みでは地域住民との交流を目標にあげている。地域住民対象での行事や交流会、児童向け行事を開催。相談支援利用者のご家族に対して、「自立支援と介護サービスについて」の勉強会を行った。そして、G、Hでの生活、サ高住での暮らしのイメージ図を紹介。また、一人暮らしの当事者にもコメントをいただき、選択肢を持って考えていただけるよう図った。
			施設の取り組みも地域で定着しつつある。今後も継続して行う。27年度も家族向け啓発活動を行う予定。					施設の取り組みも地域で定着しつつある。28年度も家族向け啓発活動を行う予定。また、家族会以外の啓発活動を計画している段階である。

事業所名	阿倍野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
1-4 その他の取組み	昨年度	今年度
	<p>□概ね昨年度から継続していることがほとんどである。職員数の問題から、積極的な展開や回数増は図れていない。</p> <p>□登録者、契約者のご家族向けに、当事者参加の地域生活支援について啓発活動を開催した。グループホームでの生活の様子、成年後見人制度の利用、社会資源の活用など話し、とても有意義であった。当事者の自信にもなり、ご家族へ向けてではあるが、ピアカウンセリング的な効果も得られたと思う。 ※27年度も開催を予定。</p> <p>□グループでの活動・行事は、定例のクリスマス会などだけでなく、調理実習など单身生活者を対象に、交流目的に比重を置いて開催できた。</p>	<p>□計画相談の新規依頼を断るケースが多かったが、セルフプランの手伝いと、事業所の紹介等を行うなど、ただ断るだけでなく、サービス利用を開始するところまでの支援は行った。また、その後も相談があれば、サービス調整に入るなどのフォローも行っている。</p> <p>□グループでの活動・行事は、定例のクリスマス会などだけでなく、調理実習など单身生活者を対象に、交流目的に比重を置いて開催できた。</p> <p>□登録者、契約者のご家族向けに、当事者参加の地域生活支援について啓発活動を開催した。特に、親亡き後の生活に重点を置き、実際に利用できるサービスの説明や、地域で福祉サービスを利用して一人暮らしをされている方に、実家から出て一人暮らしをするまでの流れ、楽しいことや不安なことを話してもらった。</p> <p>また、当事者も高齢になってきていることから、介護保険と、障がい福祉サービスの併用についても話をした。</p>

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

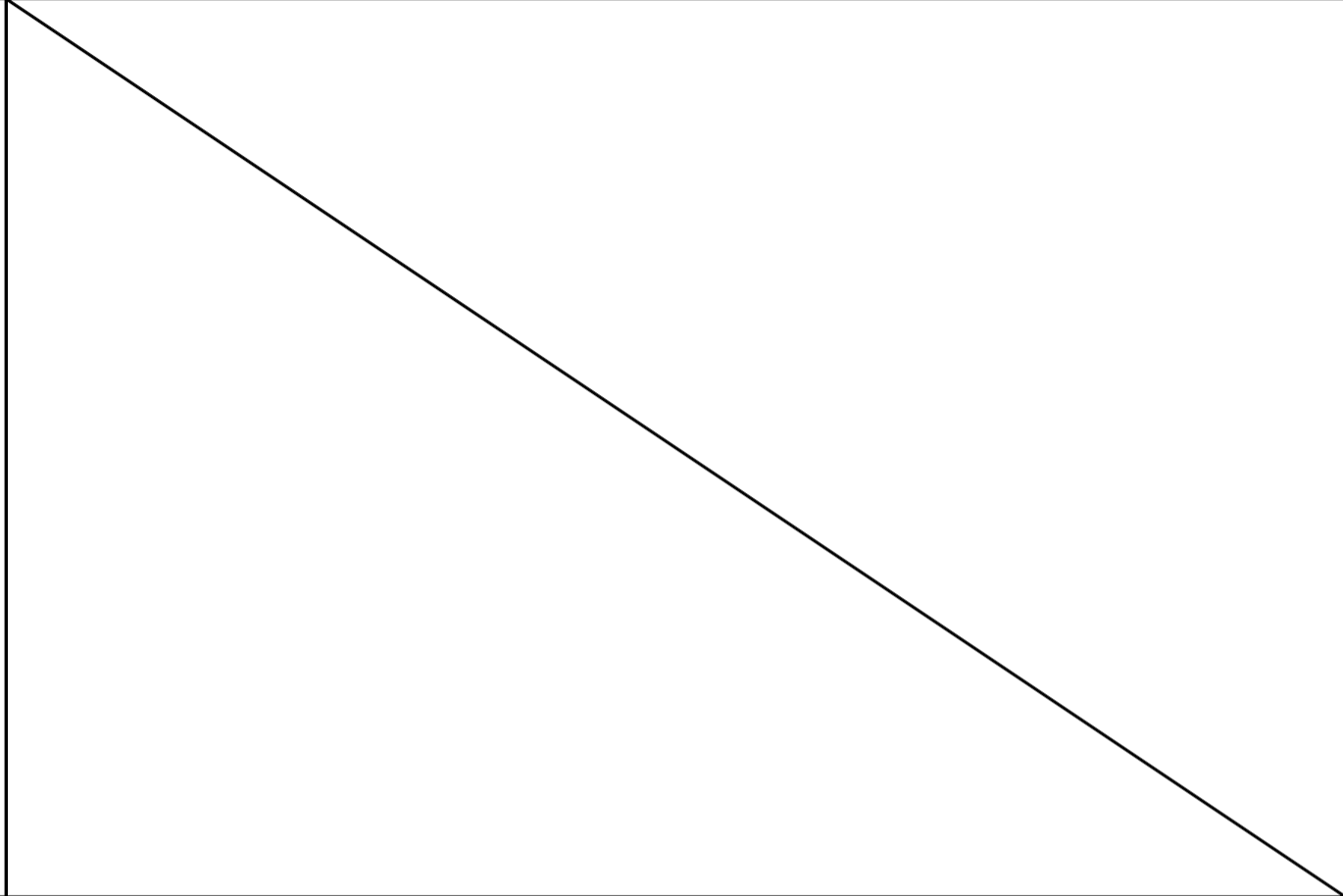
事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター					変更又は改善内容										
2 日々の相談支援業務		平成26年度					平成27年度										
2-1 継続支援対象者数		平成26年度					平成27年度										
①利用登録者(継続支援対象者)の実人数(指定相談支援を除く)		平成26年度					平成27年度										
障がい種別		前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数								
身体障がい	視覚	4	0	0	4												
	聴覚	0	0	0	0												
	肢体	3	1	0	4	6				6							
	内部	0	0	0	0												
	計	7	1	0	8	6	0	0		6							
難病																	
知的障がい		51	7	9	49	41	1			42							
精神障がい		11	4	3	12	11	2			13							
障がい児		20	4	9	15	19				19							
重複障がい		23	5	3	25	19				19							
その他		1	0	0	1		1			1							
合計		113	21	24	110	96	4	0		100							
②指定特定相談支援を実施した実人数		身体障がい	知的障がい	精神障がい	その他	計	身体障がい	知的障がい	精神障がい	その他	計						
		1人	16人	5人	4人	26人	5人	32人	11人	15人	63人						
2-2 相談支援内容		平成26年度					平成27年度										
①延べ相談件数		福祉サービス	社会資源	社会生活力	ピアカン	権利擁護	専門機関	その他	計	福祉サービス	社会資源	社会生活力	ピアカン	権利擁護	専門機関	その他	計
身体障がい	視覚	利用登録者							0	7	1	1				25	34
		それ以外							0	5						20	25
身体障がい	聴覚	利用登録者							0							1	1
		それ以外							0								
身体障がい	肢体	利用登録者							0	19	5	3		2		47	76
		それ以外							0							15	15
身体障がい	内部	利用登録者							0							1	2
		それ以外							0		1						
身体障がい	計	利用登録者	0	0	0	0	0	0	0	26	6	4	0	2	0	72	110
		それ以外	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	37	43
難病		利用登録者							0							4	4
難病		それ以外							0								
知的障がい	計	利用登録者							0	134	30	60	2	27	11	916	1180
		それ以外							0	8		4				47	59
精神障がい	計	利用登録者							0	58	8	27		6	1	369	469
		それ以外							0	15	9	3		4		76	107
障がい児	計	利用登録者							0	42	7	5				145	199
		それ以外							0	29	9	1				32	71
重複障がい	計	利用登録者							0	51	13	25		46	2	549	686
		それ以外							0	19	4				1	27	51
その他	計	利用登録者							0	3	6	5		1	1	255	271
		それ以外							0	1		1				25	27
合計	計	利用登録者	0	0	0	0	0	0	0	314	70	126	2	82	15	2306	2915
		それ以外	0	0	0	0	0	0	0	0	77	23	9	0	4	1	248
総合計		0	0	0	0	0	0	0	0	391	93	135	2	86	16	2554	3277
②相談の実施方法		来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計	来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計						
		191件	1522件	404件	0件	2117件	187件	2761件	328件	0件	3276件						

事業所名	阿倍野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
2-3 日々の相談件数の分析	平成26年度	平成27年度
	<p>○引きこもりの状態にある発達障害者への、社会適応についての支援。                  ○高齢母と精神障害者世帯の支援。ご本人それぞれに判断能力低下がみられ、高齢分野も含め、支援者でケース会議を経て支援方針を決定していった。                  ○行動障害のある方の日中活動先のサービス利用支援。送迎の課題。①若年（20歳前後）の経度知的障がい者、発達障がい者で、ご家族・親族の支援が少ない方の生活支援。                  ②児童福祉施設退所後の地域生活支援。                  ※①②ともに本人の自立支援と安全・安心な生活を支援したいが、本人の自己理解、判断力、経済力、生活力、就労能力すべてにおいてまだまだ援助が必要な方が多い。しかし本人が支援に対して敬遠気味である場合。                  ○重度重複障がいの方で、主たる介護者である父親が亡くなられた後の地域支援。グループホームの模索。                  ○計画相談支援では、立て続けに児童の計画依頼があった。児童の計画では相談支援専門員にも、児童福祉、療育の専門的知識や経験が必要ではないか。                  ○未就学児童の計画が多く、児童発達支援が主たるサービスになるが、保護者の希望は「療育」というものが多かった。また保健福祉センターや子育て支援室では、事業所選びの助言がなく、「事業所を見立ててほしい」という希望もあった。                  ○事業所の具体的情報提供は、児童本人の発達状態をみることのできる専門性は欠かせない。また事業所は「療育」をうたっていても、実際には居場所的な要素が強いところが多い。個別療育は受け皿が少なく、相談支援としても保護者の希望に添えていない感覚が強かった。</p>	<p>○サテライト型のG・Hでの支援について。管理体制が包括型と比べて甘いため、トラブルが多かった。（個人や事業所によっても違いはあるだろうが…）友人関係で、性関係でのトラブルがあり、DV担当に入ってもらったケースもあった。                  ○買いたい衝動が抑えられず、携帯代と同時請求でネットショッピングをしてしまい、多額の負債を抱えてしまうケース。便利な反面新たな課題を生み出している。                  ○成年後見制度の申し立て、年金申請の相談、手伝いが多かった。                  ○精神障がいの方からの相談依頼が年々増えている。「居宅介護事業所を探してほしい、仕事を探してほしい、お金で困っている」などさまざまな相談があった。                  ○難病の方からの相談も増えてきているように感じる。                  ○引きこもりの状態にある発達障害者への、社会適応についての支援。                  ○未就学児童の計画が多く、児童発達支援が主たるサービスになるが、保護者の希望は「療育」というものが多かった。また保健福祉センターや子育て支援室では、事業所選びの助言がなく、「事業所を見立ててほしい」という希望が多かった。センターとして、療育面での専門性は低いいため、家族に迷惑をかけている場面が多かった。                  ○計画相談の新規ケースも多かった。わかばも新規は積極的に受け入れておらず、セルフプランの作成、事業所探しのお手伝いで対応する場面もあったが、他事業所では断られたというケースも多く、受けざるを得ないこともあった。</p>



区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター				変更又は改善内容			
2-4 住宅入居等支援事業の実施状況		平成26年度				平成27年度			
①実施状況		入居斡旋件数	登録者数	緊急対応件数	入居斡旋件数	登録者数	緊急対応件数		
	身体障がい								
	知的障がい								
	精神障がい								
	重複障がい								
	難病・その他								
	計	0 件	0 人	0 件	0 件	0 人	0 件		
②緊急対応の内訳		時間帯別		平日・休日別		時間帯別		平日・休日別	
	夜間出動			休日出動		夜間出動		休日出動	
	日中出動			平日出動		日中出動		平日出動	
	合計	0 件		合計	0 件	合計	0 件	合計	0 件
		出動要請者		出動内容		出動要請者		出動内容	
		本人		病気・けが等の発生		本人		病気・けが等の発生	
		家主		精神症状の悪化		家主		精神症状の悪化	
		近隣		日常生活上のアクシデント		近隣		日常生活上のアクシデント	
		警察・消防		家事・災害等		警察・消防		家事・災害等	
		医療機関		近隣からのクレーム		医療機関		近隣からのクレーム	
		その他		その他		その他		その他	
2-5 業務委託料の収支精算見込について		平成26年度				平成27年度			
①歳入		金額	内 訳		金額	内 訳			
	科目								
	業務委託料	13,232,000 円			12,970,000 円				
	預金利子								
	その他								
	合計	13,232,000 円			12,970,000 円				
②歳出		平成26年度				平成27年度			
	科目	金額	内 訳		金額	内 訳			
	人件費	10,724,565 円			10,330,865 円				
	常勤職員人件費	6,422,274 円			5,900,952 円				
	非常勤職員人件費	3,292,950 円			3,200,000 円				
	その他	1,009,341 円			1,234,108 円				
	物件費	2,507,435 円			2,639,135 円				
	報酬	61,566 円	交通費(¥38,870-)研修費(¥12,000-)会議費(¥10,696-)		123,912 円	交通費(¥35,710-)研修費(¥28,000-)会議費(¥60,202-)			
	賃金	67,558 円	福利厚生費		62,020 円	福利厚生費			
	報償費	0 円			0 円				
	消耗品費	300,791 円			295,779 円				
	印刷製本費	126,404 円			145,761 円				
	光熱水費	198,414 円			185,115 円				
	通信運搬費	254,864 円			268,674 円				
	手数料	44,716 円			10,556 円				
	筆耕翻訳料	0 円			0 円				
	使用料	0 円			147,960 円	広報費			
	不動産賃借料	1,332,300 円	建物賃借料(¥1,200,000-)他賃借料¥132,300-		1,332,300 円	建物賃借料(¥1,300,000-)他賃借料¥32,300-			
	備品購入費	69,568 円	療育活動材料費など		27,188 円				
	その他	51,254 円	修繕費(¥11,664-)保険料(¥28,590-)雑費(¥11,000-)		39,870 円	修繕費(¥12,840-)保険料(¥19,930-)雑費(¥7,100-)			
		合計	13,232,000 円			12,970,000 円			

事業所名	阿倍野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
3 区における地域課題について	昨 年 度	今 年 度
区における全般的な課題についての現状認識及びその解決・改善に向けた提案・提言など		
		<p>60代の障がい者を高齢の親が見ているというケースが増えてきた。しかし、親はどのように動いてよいのか分からず時間だけが過ぎて行っている様子が伺えた。そのため、親亡き後の生活についてイメージを持っていただくために啓発活動が必要である。</p>

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
4 自己評価を終えて		昨 年 度	今 年 度
4-1 区地域自立支援協議会での報告			
	報告日	平成27年11月25日	平成28年5月25日
	出席者からの意見		
	0 相談支援事業所の概要	<input type="checkbox"/> 相談支援センターは、日々多様な相談を受けていることが伺えた。	<input type="checkbox"/> 人数が少ない中、本当にさまざまな相談を受け、地域活動（自立支援協議会等）に参加してくれていると思う。
	1 事業運営全般	<input type="checkbox"/> 虐待通報先として、福祉サービス関係に従事している人であっても、区センターが役割をになっていることを知らないひとがおおいのではないかと。 →周知をどのように図っていくかが課題である。	
			<input type="checkbox"/> 自立支援協議会でわかばが出した事例から、自立支援協議会に家庭児童相談所が事業の説明に来てくれ、今後のつながりのきっかけになったのではないかと思う。 <input type="checkbox"/> 切れ目のない支援で、それぞれの時期に出てくる課題等に対応していくのは本当に大変だと思う。

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
	2 日々の相談支援業務	<input type="checkbox"/> 家族会については27年度も実施を行っていく予定。	<input type="checkbox"/> 相談件数が増えており、よく動いているというのが、数字からも読み取ることができる。
	3 区における地域課題について	<input type="checkbox"/> 障がい者マップの見直しについて。 →防災マップと連動はむりなのか？検討していく。 <input type="checkbox"/> 阿倍野区と言っても、各地域によって特色があり、そういったことも把握しておく、支援に役立つのではないかと。 →社会福祉協議会と連携して検討していく。	<input type="checkbox"/> 施設連絡協議会との連携を取り、地域課題の把握に努めていくべきではないのか？



事業所名	阿倍野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
4-2 一連の自己評価のプロセスを終えて	昨年度	今年度
	<p><b>発表前段階</b>                      ①計画相談支援の影響は当然25年度にも増して大きい。単に件数でいえば契約者が増え、委託での件数計上しておらず、相談件数の理由の原因の一つとなっている。                      ②その分、委託としては地域課題の集積や対策検討など求められている力を注ぐべきであるが、具体的に目に見える結果は残せなかった。                      ③計画相談支援への対策としては、保健福祉センターの配慮に任せている形であり、過度な負担はなかった。地域事業所との情報交換は試験的にできた。各区の対策や具体的対応に違いがあることは常に気になっているところである。                      ④平成25年後半で、26年度の自立支援協議会について大きな見直しを提言できた。この評価をしているなかでも、いろいろな取り組みを開始しているところであり、26年度につながる活動ができた。</p> <p><b>発表後</b>                      ①相談支援センターとして、地域の事業所や関係機関とは少しずつネットワークができてきていると思う。他区の状況は分からないが、区内では建設的意見交換ができてきていると思う。                      ②日々の相談業務の振り返りとして、運営評価の意味は大きい。                      ③しかし前年度の年間評価を次年度の今の時期に行うことで、昨年度の感覚や、それを受けて現在どういった取り組み、支援をしているかの状況が伝わりにくいと感じた。自立支援協議会での発表なので、協議会としての意見が多くなるが、24年度より25年度、26年度と前進できている手応えがある。-</p>	<p><input type="checkbox"/> 全体的に自己評価が低いのではないかという指摘が、協議会の委員からあった。区センターとして自分たちが思っている以上に、機能しているという評価を得ることができた。</p> <p><input type="checkbox"/> この評価について、市からフィードバックがあるのかという質問もあった。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域課題に関するアプローチが弱かったように感じる。周知や地域課題の把握や、解決に向けた取り組みを行っていかなければならない。</p> <p><input type="checkbox"/> マンパワーについては、募集等法人を通して行っている。待つだけでなく、今あるマンパワーで業務をこなしていくために、効率化を図っていくことも必要である。</p> <p><input type="checkbox"/> 良い意味でも、あるいは意味でも障がい者相談支援センターが認識されてきたと感じる。                      (良い意味) …今まで、障がい福祉サービスや相談に繋がっていなかったケースの相談が本人、家族、事業所からあり、潜在的ニーズの掘り起しに繋がっている。                      (悪い意味) …区センターができる範囲を超えた相談が増加している。                      ※とりあえずセンターにという形で行政も丸投げしてくるなど。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援協議会について…                      ・26年度にも書いているが、年度を追うごとに少しずつではあるが、活動が活発化しそれによって横のつながりも広がってきているように感じる。                      ・研修部会による区民向けの講座を開催するなど、地域に向けた啓発活動等にも着手することができた。                      ・児童分野の集まりも開催することができ、定例化に向けて取り組んでいる。</p>